

試問青年之士、卿等所望何也、利乎、名乎、榮華乎、否成聖賢而說道乎、將又成富豪而積幾百千萬之財乎、人各異於其所好、聞蟲食麥、何故不食蘿蔔邪、是甚愚言也、卿等向其所好而可猛進也、夫官位勳爵高者非必貴者、富者非必幸福者、有名者非必傑者、無名者非必劣賤者也、人誰有不樂幸福者、然爲其幸福、由人品高下、有以異也觀造莊、畜美妾、目食耳視、以空一生者、舉世以是爲幸福也明矣、或謂是人生本能之所命也、雖然、苟有理想者及有教養者豈逐本能之滿足而已耶、又何望一身一家之幸福而已耶、嗚呼是志士與俗人、君子與小人之分岐點也矣。



芬陀利の峯

H・M 生

おゝ芬陀利の峯よ、

氣高きあこがれに燃ゆる芬陀利の峯よ、

慕ひ登る男の子女の子らは、

はるかに爾ちを仰ぎ

誰か喜びの胸おどろかせつゝ、

叫びをあげざるものやある

× × × × × × ×

想ひやる果てしも知らぬ、

大地の底の底より生えて、

紺青の空いや高かれど、

富川のほとりよりそゝりたち、

雲を分け雲を抜け出づる芬陀利の峯、

× × × × × × ×

おゝ芬陀利の峯よ、

白雪は麓に低く收まり、

朝日にさへて浮び出る時、

わが魂は喜びにふるひたり、

すべての高き優れたる力を、

慈母の如くなげかけて、

弱き心を拭ひ捨てつ、

× × × × × × ×

一たび谷間に下りて爾ちを仰ぐ、

戀人を見る如く、

或時はまばゆげに、

